

●3月20日（月）

《本日のプログラム》

- ・現地高校訪問 – Nipmuc Regional High School
- ・日本人ゲストとの懇談 – タフツ大学「フレッチャースクール」

いよいよ研修も終盤、メインのプログラムとしては実質本日が最後となりました。ファミリー宅での週末（日曜）も楽しく過ごすことができたようで、集合した際にはそれぞれの経験を嬉しそうに話しておりました。短期研修ながら毎日盛りだくさんの活動、英語利用による負荷、緊張感のなかでの通学、と疲労も蓄積するところですが、体調不良なく元気な顔で集合してくれたことはやはり何よりでした。

昨日（日曜日）は日中の最高気温が3度、週内での大きな気温の変化は、季節が変わるこの時期の東海岸エリアならではです。あらためてボストンに居ることを実感したところでしたが、本日はふたたび10度を超える春らしい一日に。青空とあかるい陽射しをうけつつ、交流校へ向けてバスは出発いたしました。

訪問したのはボストンから車で西に1時間ほど走った地域（Upton：アプトン）にある公立高校「Nipmuc Regional High School」です。数多くの優秀な高校が点在するマサチューセッツ州のなかでも上位進学校の一つにあげられる同校のYear 9～11（15～17歳程度）の生徒たちが集まってくれました。我々の生徒一人に対して一人のバディ生徒が自分のとっているクラスへ招待、カフェテリアにてランチも一緒にとりつつ3時間ほど、まさにつかの間ではありますが、留学体験そして同世代交流（日本文化についてのプレゼンテーションも含め）を楽しむことができました。研修終盤を迎え、英語活用にも少なからず自信がついてきたこともあるのでしょうか、ともに廊下を歩く際、食事をしている際にも日本人生徒自ら話をなげかける姿が多々見られました。

今回の欠航（往路便）によるスケジュール変更にて実施断念の可能性が高かった「高校訪問」ですが、現地校の理解と多大な協力により、交流内容もそのまま移行しての実施ができたのは本当にありがたい限りでした。

現地校体験そして同世代交流はまた新鮮で楽しい経験となったのでしょうか、いつも以上にテンション高めの雰囲気ではバスは出発し、午後のプログラムが行われる「タフツ大学」へと向かいました。ボストン郊外「Medford 地区」に位置する同大学附属（ハーバード大学との共同プロジェクト）の研究施設である「フレッチャースクール（法律外交大学院）」を訪問、そこで学ぶ日本人7名との懇談会を実施しました。日本人として初めて国連職員に採用され、事務次長を務められた明石康氏が学んだスクールであることでも有名ですが、日本の省庁はじめ公的機関、民間企業などから毎年若手リーダーとなる人材が派遣され他国生とともに学び、国際関係学の分野において世界最高スクールの一つにも評価されています。

外務省から2名、防衛省、警察省、自衛官、民間企業、そして学部生としてタフツ大で学ぶ方、計7名にお越しいただき少人数の懇談形式でセッションを行いました。当初は3名ないし4名の参加予定でありましたが、話を聞いた方々が本プログラム趣旨に関心と賛同をいただき「ぜひ力になれば」と多忙ななかで手を挙げていただけたものです。20分ごとにローテーション、各グループ3名の方に話を伺いました。日本語でのセッションということもあったのですが、これらの専門（分野）や現業務の役割（職責、職務）、留学後の展望、そしてゲスト皆様の経歴や経験（高校時分からこれまで）など、各グループともに質問が止まず、まさに90分の懇談はあっという間に終了となりました。最後は生徒4名（その場で募り、名乗りを挙げてくれた「大須賀さん、石田くん、佐藤志磨くん、鏈水くん」）から、この時間で得た大きな学びとともに感謝のこぼれを伝え、プログラムは終了となりました。

いよいよ明日はボストンを出発、帰路につきます。帰国に際しての諸連絡、再確認を行い、解散となりました。







